

データでわかる高齢者住宅②

資料提供&分析:タムラプランニング&オペレーティング

サービス付き高齢者向け住宅の統計

一般社団法人すまいづくりまちづくりセンター連合会が運営する「サービス付き高齢者向け住宅情報提供システム」で公開され

ている登録情報をベースに、タムラプランニング&オペレーティングの独自調査を加味した。

調査対象には有料老人ホームでサービス付き高齢者向け住宅の登録を行っている物件も含む。データ収集時期は2018年3~4月。

1. 入居時費用に関する統計

敷金は「10~29万円」が最多

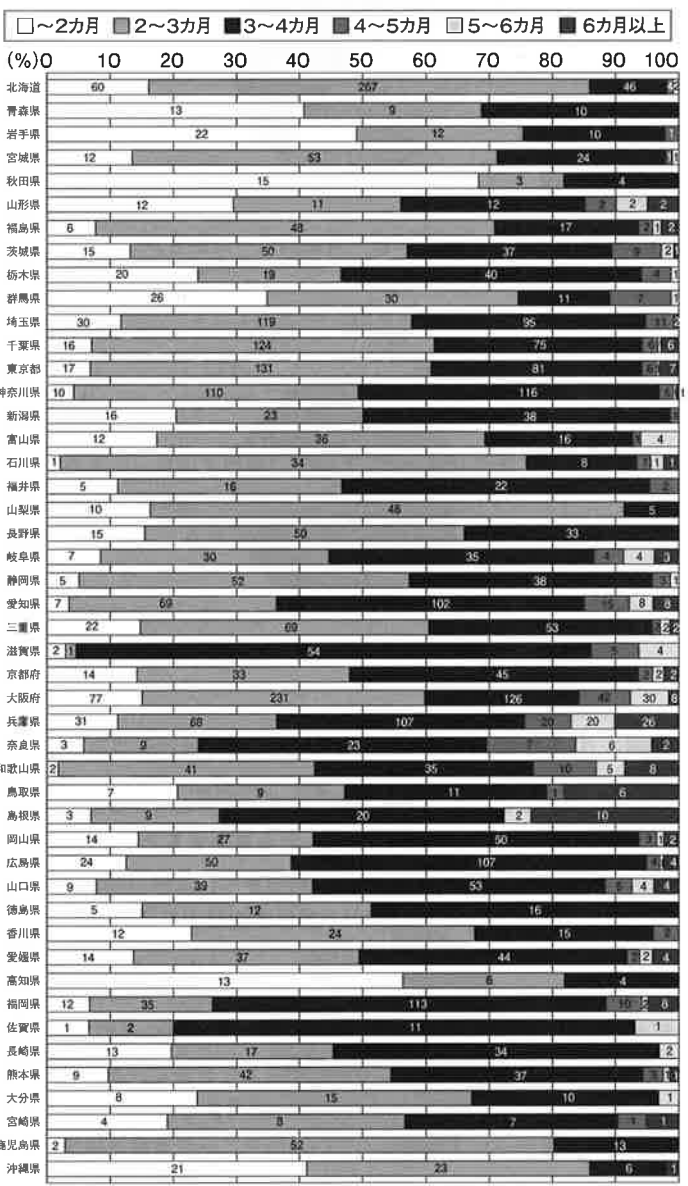
サービス付き高齢者向け住宅の入居時費用は、「敷金のみ徴収」するところが全体の73%を占め、最多となっている。「敷金、前払い家賃のいずれも徴収しない」は25%で、「前払い家賃制度」を導入しているのはわずか2%となっている。

敷金を価格帯別にみると、「10~29万円」の層が全体の48.8%を占めて最多となっており、3414カ所がこれに該当している。「敷金なし」も1904カ所と、全体の27.2%を占めている。「入居時費用なし」とすることで入居のハードルを下げている事業者も多く見受けられる。

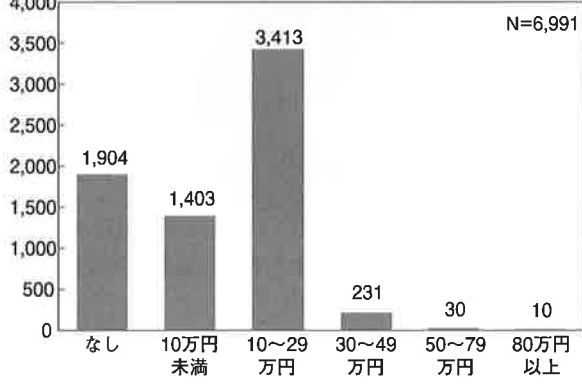
敷金が最多家賃の何カ月分に相当するかを算出すると、家賃の「2~3カ月」で設定するところが全体の42.4%と最多を占め、平均は家賃の2.5カ月分になっている。

都道府県別にみると、関西圏で敷金4カ月以上を徴収する割合が際立っており、地域性が反映された結果になっている。

<敷金構成(家賃×月数)別ホーム割合(都道府県別)> N=5,188



<敷金別ホーム数> (ホーム数)



<敷金構成(家賃×月数)別ホーム割合>

